

## 住民意識に基づく湯けむり景観周知の方向性（その2）

### —重要文化的景観の保全活用に関する研究—

正会員○野本昂<sup>\*1</sup> 姫野由香<sup>\*2</sup> 牛苗<sup>\*1</sup> 野村優太<sup>\*1</sup>

準会員 木原郁乃<sup>\*3</sup> 大堂麻里香<sup>\*3</sup>

7.都市計画—6.景観と都市設計 都市計画  
文化的景観 生活・生業 湯けむり 周知

#### 1 研究の背景と目的

我が国の文化財保護法より、地域における人々の生活又は生業及び当地域の風土により形成された文化的景観の中でも特に重要であり、その保全の措置が取られているものが「重要文化的景観<sup>注1)</sup>」として選定される。2012年9月、大分県別府市の明礬・鉄輪温泉地区（以下、明礬、鉄輪とする）における世界的にも希少な「湯けむり景観」は、重要文化的景観に選定された。

文化的景観の保全にあたり、生活・生業の担い手である住民が、地区の景観をどのように認識しているかという理解は欠くことができない。しかし、文化的景観とは、日々の生活に根差した身近な景観であることから、日常生活の中でその価値に気付きにくい傾向にある<sup>1)</sup>とされている。つまり、人々が文化的景観を効果的に周知するための方策を示すことは、今後の文化的景観の保全と活用の方針を検討するにあたり重要であるといえる。既往研究<sup>2)~3)</sup>では、文化的景観を構成し得る景観構成要素の特徴が明らかにされている。また、既往研究<sup>4)</sup>では、住民および外来者の重要文化的景観に選定された事実の認知度を把握し、住民と外来者の考える周知のための課題と提案が明らかにされている。

そこで、本報その2では、対象地区の生活・生業の中に存在する地域の魅力を整理し把握する。また、重要文化的景観選定における周知の課題とそれを解決・改善できる提案を改めて確認し、再度必要な提案を把握する。その結果、周知の課題を解決・改善できるとされた提案の重要性を整理することを目的とする。

#### 2 研究の方法

本研究では、重要文化的景観選定における周知の課題を解決・改善できる提案の重要性を整理するために、明礬・鉄輪の両地区でワークショップを行う（図1）。ワークショップの概要は、前報その1に示す。ワークショップでは、それぞれの地区の温泉資源と関連した

魅力について考え、次に、重要文化的景観選定における周知の課題を共有し、それぞれの課題を解決する提案を挙げる。最後に、挙げられた提案に優先順位をつけ、各提案の重要性を整理することで、湯けむり景観の周知の方法を検討する。



図1 ワークショップの様子（左：明礬、右：鉄輪）

#### 3 対象地区の温泉資源に関連した魅力

明礬・鉄輪のワークショップで挙げられた「温泉資源と関連した魅力」について、住民の意見を「魅力」、「提案」、「課題」に分けて整理した。

##### 3-1 明礬温泉地区

明礬で言及された魅力は、「湯の花小屋<sup>注2)</sup>」、「地区全体」、「共同温泉」、「景観スポット」の大きく4つに分けて把握することができる（図2）。そのうち「魅力・課題」が4件以上挙げられた項目は「湯の花小屋」、「地区全体」、「共同温泉」である。

最も多く言及された「湯の花小屋」は、湯の花は明礬独特の特産品であり景観要素であることなどが、魅力として挙げられた。一方、湯の花小屋の減少<sup>注3)</sup>などの意見が課題として挙げられた。「地区全体」は、地区全体を通して温泉の泉質が良好であること、自然が豊富であることなどが、魅力として挙げられた。「共同温泉」は、昔から管理をしている地域だけの共同温泉があることなどが、魅力として挙げられた。

明礬では、「湯の花小屋」について意見が最も多く挙げられ、「魅力・課題」が集中している。このことから、明礬の温泉資源に関連した魅力は、「湯の花小屋」と関係しており、同時に課題も多いことが分かる。

Strategy of Publicizing about Cultural Landscape of Hot Spring Steams Based on Residents' Opinions(2)

-A Study on Conservation and Utilization of the Important Cultural Landscape-

NOMOTO Subaru, HIMENO Yuka, GYU Myo, NOMURA Yuta, KIHARA Ikuno, ODOU Marika

### 3-2 鉄輪温泉地区

鉄輪で言及された魅力は「景観スポット」、「地区全体」、「路地・街並み」、「旅館」、「共同温泉」、「地獄釜」注4)、「半農半宿の文化」、「気候」、「九州横断道路」、「遺構」の大きく11の魅力に分けて把握することができる(図3)。そのうち「魅力・課題・提案」が4件以上挙げられた項目は「景観スポット」、「地区全体」、「旅館」、「共同温泉」、「路地・街並み」、「気候」の6つで

ある。

最も多く言及された「景観スポット」は、湯けむり景観を一望できる場所や、街並みの中にも見せ場としての視点場が豊富にあることが魅力として挙げられた。「地区全体」は、源泉の跡が残っていること、地区全体に錆びた配管が張り巡らされていることなどが魅力として挙げられた。一方、配管が錆びついていることが課題であるという意見もある。「旅館」は、規模は小

さいが、数が豊富であることが魅力として挙げられた。「共同温泉」は、共同温泉が豊富にあることなどが魅力として挙げられた。「路地・街並み」は、狭い道や曲がりくねった道(路地)などが魅力として挙げられたが、自動車通行量の増加により路地や通りの魅力を感じにくくなってきたという意見も課題として挙げられた。「気候」は、温暖な気候によりブーゲンビリア注5)やゴムの木などの亜熱帯植物がよく育つなどが魅力として挙げられた。

鉄輪では、景観を眺めることができる「景観スポット」について意見が最も多く挙げられ、「魅力・課題・提案」が集中している。また、路地や街並みを魅力とする意見も多いことから、住民の方々が考える鉄輪の魅力の多くは、湯けむり景観を見る・見せることができる視点場の多様性と数に集

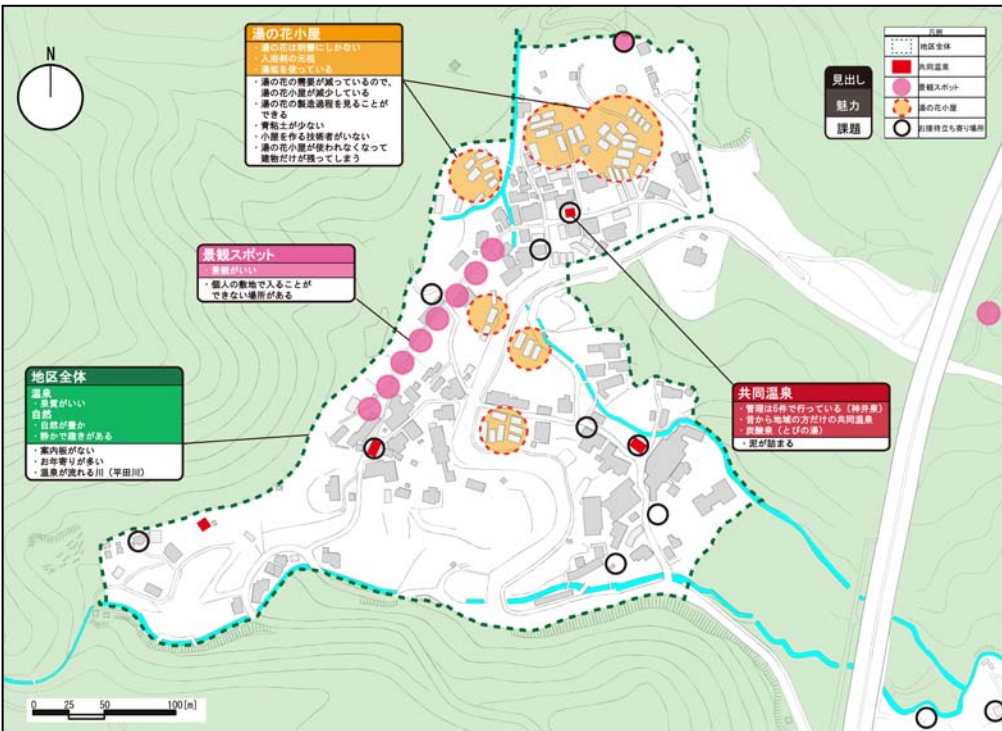


図2 温泉資源と関連した魅力まとめ図(明礬温泉地区)

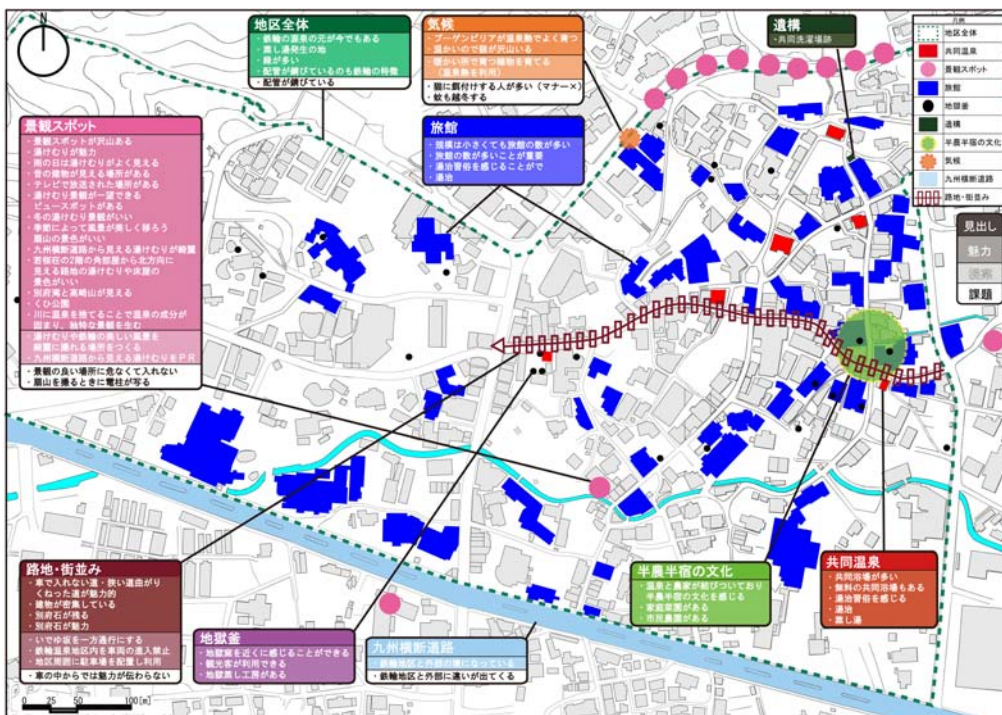


図3 温泉資源と関連した魅力まとめ図(鉄輪温泉地区)

中している傾向があることがわかる。

#### 4 文化的景観の周知の方向性

既往研究<sup>4)</sup>において、湯けむり景観を価値ある景観

として認識するために「価値の認識が困難」、「広報に対する不満」、「制度・言葉が難しい」、「周知の施設・設備の不足」という4つの課題が存在することが明らか

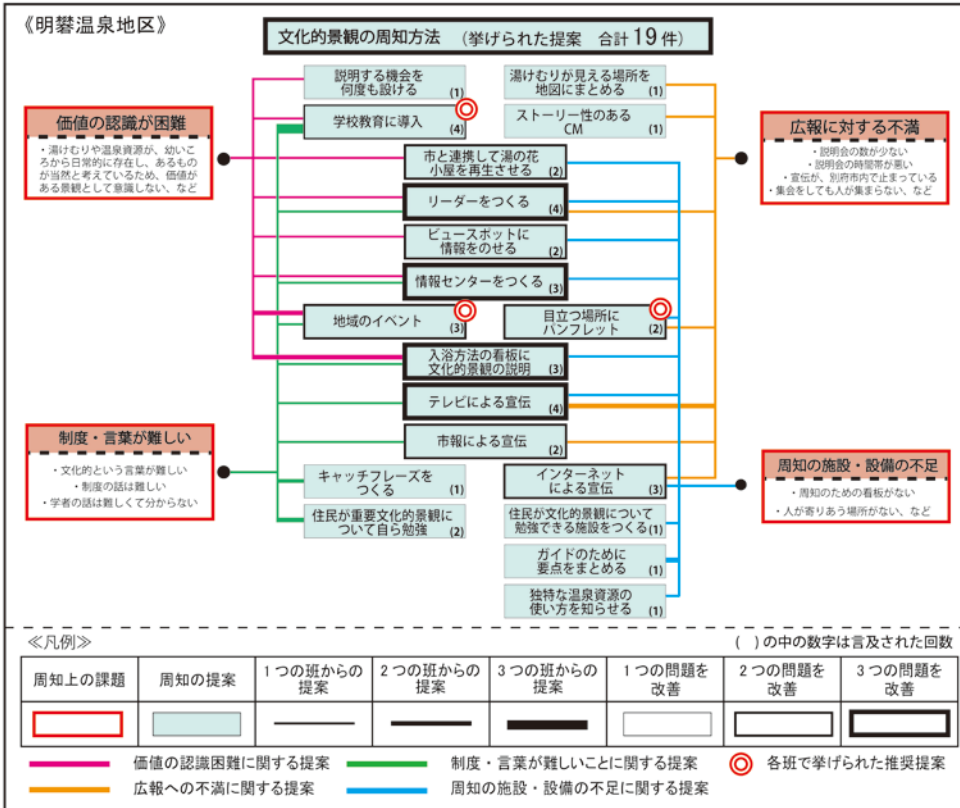


図4 周知の課題に対する提案まとめ図(明礬温泉地区)

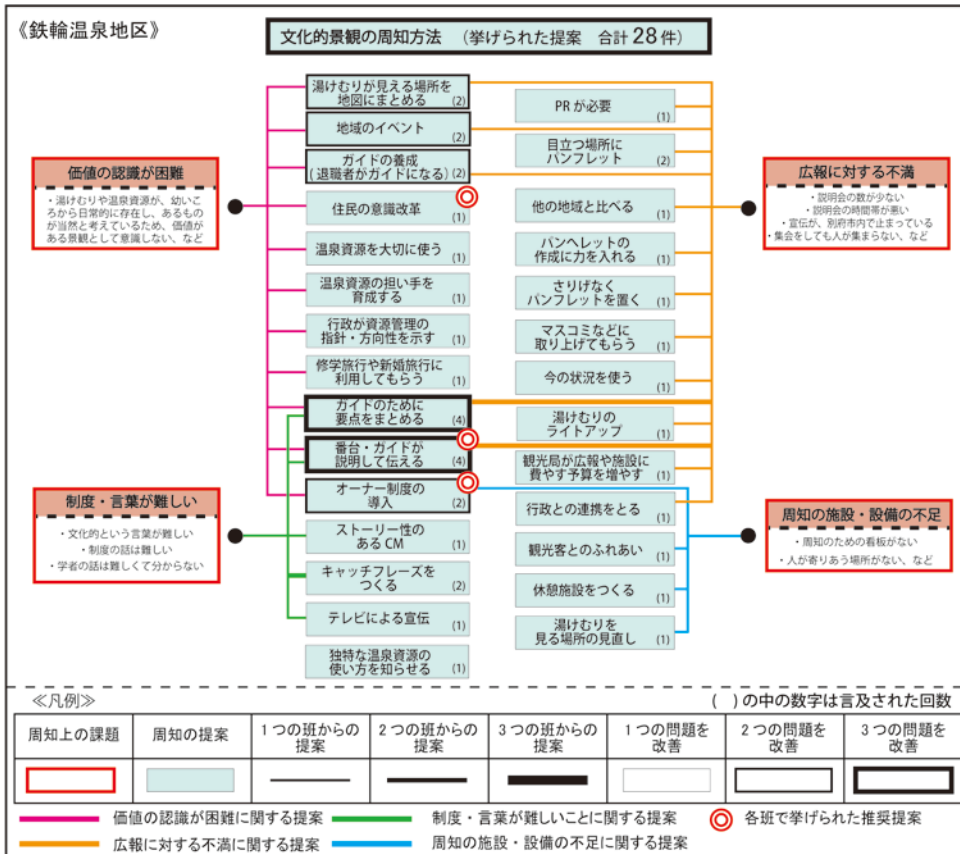


図5 周知の課題に対する提案まとめ図(鉄輪温泉地区)

かにされている。ワークショップでは、これらの周知上の課題と周知における効果的な方法を、模造紙上で線を結び、周知の方向性を検討した。挙げられた提案は、複数の班からの提案、または複数の課題解決につながり言及された回数<sup>注6)</sup>が多い提案、複数の課題改善につながらなくとも地域の取り組みとして必要であるとされた提案を、重要な提案として位置づけて整理する。

#### 4-1 明礬温泉地区

明礬では、湯けむり景観を価値ある景観として認知するための課題解決につながる提案が19件挙げられた(図4)。言及された回数が最も多い提案は「学校教育に導入」、「リーダーをつくる」、「テレビによる宣伝」であり、それぞれ4回ずつ言及された。「学校教育に導入」という提案は、「価値の認識が困難」、「制度・言葉が難しい」という2つの課題改善に繋がりが、班の推奨提案としても挙げられた。このことから、明礬では、メディアによる宣伝よりも、子供たちに地区の景観の価値を教え、伝えることが

文化的景観の周知において効果的であると考えられる。

また、「地域のイベントの開催」、「目立つ場所にパンフレットを置く」という提案も、班の推奨提案として挙げられている。「地域のイベントの開催」は、お接待<sup>注7)</sup>やまち歩きの際に、訪れた場所の説明と文化的景観の説明を交えることが重要であると言及された。「目立つ場所にパンフレットを置く」は、駅や旅館などパンフレットを置く場所について言及された。これらの提案は、言及された回数が3回、2回であるが、地域の取り組みとして必要な提案として位置づけられ、文化的景観の周知において重要な提案であるといえる。

#### 4.2 鉄輪温泉地区

鉄輪では、湯けむり景観を価値ある景観として認知するための課題解決につながる提案が27件挙げられた(図5)。言及された回数が最も多い提案は「地域のガイドをするために要点をまとめる」、「番台・ガイドが説明して伝える」であり、それぞれ4回ずつ言及された。「番台・ガイドが説明して伝える」という提案は、班の推奨提案としても挙げられた。このことから、鉄輪では、地区の景観の価値を認識するために、ガイドなどの地区の景観の価値を伝える人の存在が重要であり、ガイドをするための仕組みを整理することも重要な提案であるといえる。

また、「オーナー制度の導入」、「住民の意識改革」という提案も、班の推奨提案として挙げられている。「オーナー制度の導入」は、温泉資源を所有していない住民や外来者が、温泉資源を実際に利用することで価値の周知につながると言及された。「住民の意識改革」は、温泉資源や、地区の景観の価値や重要性について、今一度考え直すことが重要であるとされた。これらの提案は、言及された回数が2回、1回であるが、地域の取り組みとして必要な提案として位置づけられ、文化的景観の周知において重要な提案であるといえる。

### 5 総括と今後の課題

本報では、明礬・鉄輪の地区の住民を対象にワークショップを行い、「温泉資源と関連した魅力」を地図上に整理し把握した。また、文化的景観の周知方法について、挙げられた提案の重要性を整理し検討すること

で、効果的な周知方法を明らかにした。

「温泉資源と関連した魅力」は、湯の花小屋や旅館などの地区の独特な景観構成要素や、湯けむり景観や地区の景観がよく見える景観スポットが多く挙げられる傾向にある。このことから、地区の魅力とされた景観構成要素や場所を管理・運営するための補助や整備を行うことが、今後文化的景観の魅力を住民や外来者に伝えるための一助となると考えられる。また、文化的景観の効果的な周知方法として「テレビなどのメディアによる宣伝」が重要視される<sup>4)</sup>一方で、「学校教育に導入」や「番台・ガイドの説明」という提案が、重要な提案として位置づけられた。このことから、実際に地区の生活・生業を体験することや口伝による人を介して伝える手段が、住民の文化的景観の効果的な周知方法として重要であるといえる。

「湯けむり景観」を保全するためには、生活・生業の担い手である住民が、地区の景観をどのように認識しているかという理解は、欠くことができない。そのため、挙げられた魅力や周知の提案を活用し、日常生活のなかで身近に存在する文化的景観の価値の周知に取り組むことは、重要であるといえる。しかし、「学校教育に導入」、「オーナー制度の導入」等の提案は、住民だけで行うには限界があり、行政の補助や専門家の知識が必要とされる。今後は、住民と行政や専門家が密接に連携をとり、地域のまちづくりに取り組むことが課題である。

#### 【補注】

- 注1) 重要文化的景観「文化財保護法第二条第一項第五号より」
- 注2) 湯の花小屋「湯の花を精製するための小屋。内部の温度を一定に保ち雨漏れせず、蒸気中の水分を藁屋根が水滴とならず、屋外へ放出する。」
- 注3) 湯の花小屋の減少「つくらない・葺き替えないままの放置など」
- 注4) 地獄釜「温泉の蒸気熱を利用した加熱調理装置」
- 注5) ブーゲンビリア「オシロイバナ科ブーゲンビリア属に属する熱帯性の低木」
- 注6) 言及された回数「図4、図5の青いカードの右下に示す数字」
- 注7) お接待「地区の12地蔵を巡るイベント」

#### 【参考文献】

- 1) 奈良文化財研究所「文化的景観研究会(第2回)報告書」2010年12月
- 2) 別府市生涯学習課 平成22年度 湯けむり景観保存計画 策定に関する研究報告書 2011年3月
- 3) 別府市 平成23年度 明礬温泉地区温泉湯けむり重点景観計画策定委託業報告書 2012年3月
- 4) 別府市生涯学習課 平成25年度 別府市文化的景観保全活用計画策定に関する研究報告書 2014年3月
- 5) 別府市誌、第1巻～第3巻

\*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程  
\*2 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)  
\*3 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生

Graduate Student, Oita Univ.  
Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng  
Undergraduate Student, Oita Univ.